

平成18年度第1回宇都宮市食育推進会議 会議記録（概要）

■ 日時

平成18年8月22日（火） 午後1時30分～

■ 場所

宇都宮市保健所 3階大会議室

■ 出席者

【委員】20名

小宮委員，今井委員，渡辺委員，杉田委員，片山委員，小林委員，栗田委員，間中委員，石嶋委員，若度委員，神崎委員，稲見委員（代理），大塚委員，小川委員，鶴見委員，半田委員，金枝委員，永沼委員，平野委員，本庄委員

■ 会議経過

1 開会

2 保健所長あいさつ

3 委員紹介

4 会長，副会長の選任

会長：小宮委員 副会長：今井委員

5 議事

- ・ 宇都宮市食育推進会議について（事務局説明）

【主な意見】なし

- ・ 宇都宮市食育推進計画の策定について

※ 食育基本計画（国）の概要，食を取り巻く現状の説明（事務局説明）

【主な意見】

● 委員

「食育」という言葉の定義、食育とは何であるかということと、栃木県の推進計画の策定スケジュールはどのようになっているか伺いたい。

□ 事務局

- ・ 食育基本法によると、「食育」とは生きるうえでの基本であって知育，徳育，体育の基礎となるべきものである。また，様々な経験を通じて食に関する知識と食を選択する力を習得し，健全な食生活を実践することが出来る人間を育てることと定義している。
- ・ 県の策定スケジュールについては，7月の終わりに，第1回推進本部の会議が開催されて

おり、8月9日に食育推進懇談会が開かれている。予定では、11月に第2回の懇談会を開催して、今年末の12月の計画を策定する予定になっている。

● 委員

朝食の欠食についてだが、「朝ごはん」とは何であるかという定義を考え直したい。パンを1枚食べるだけでも朝ごはんといえるのか。もちろん食べないよりは食べたほうが良いが、何を持って朝ごはんとするか。朝ごはんの内容までも考える必要があるし、調査も必要である。

◎委員長

今後の食育を推進していく中で、意識調査等を行う予定はあるのか。

□ 事務局

食育に関する意識調査を行う予定である。

・ 「宇都宮市食育推進計画」の策定について

※ 計画の基本方針、構成、施策の展開について（事務局説明）

【主な意見】

● 委員

食育は間口が広いが、男女共同参画の視点を入れてほしい。例えば、男女が協力して家庭で食育について考える。親子の料理教室で食育について勉強する。また、企業の協力という中で、たまには残業を無くして、おとうさん、おかあさんを早く家庭に帰して、家族揃って食卓を囲むことも必要であり、そういったことも含めて、男女共同参画の視点を入れてほしい。

● 委員

資料にある基本目標、施策などは次回の食育推進会議までに検討すればよいのか。

● 委員

施策の展開方向についての切り口がいくつか例示されているが、会議の中でどの展開方法が良いのかを検討してほしいということではないのか。

□ 事務局

- ・ 委員のご指摘通り、施策の展開については例で示したところだが、国の施策を基本に考えていることと、他の計画において性質別に施策を分別している計画もあることから、例示した。施策の展開については、国の計画を参考にして考えていくか、性質別で考えていくのか、例えば、性質別で考えていく場合には、宇都宮市としてどのようなものが考えられるか、というところまでご意見をもらえればありがたい。
- ・ 宇都宮市としては、ライフステージにおける食育の取組みは施策の展開の一形態として考えていることを委員の皆様を示した。これらの施策についても、ご意見をもらえればと思う。また、基本理念についても、内容、文言等も含めてご検討いただきたい。

● 委員

ライフステージの取組みについて、それぞれの施策を出しながら、宇都宮市の特徴として出していくのは良いと思う。ライフステージに併せた施策を入れ込んでいくということでしょうか。

● 委員

国があって県があって宇都宮市があるというわけで、施策の展開については国を参考にするべきだと思う。ライフステージにおける食育の取組みはとても大切なことであり、年代別に何をすべきかが示されることは良いことであると思う。

● 委員

学校、保育園といった表現はあるが、幼稚園が抜けてしまっている。保育園などのなどに含まれていると思うが、幼稚園も表示してほしいと思う。

● 委員

早く母親を家に帰すとか、週に1度はお店が早く閉まるとか、自分として何をすれば良いかを分かるためには国の施策の流れだけでは難しいと思う。食育に対して持っているイメージはそれぞれ違っているが、それぞれの立場を理解することが必要である。さきほどから話のあったライフステージは細かい取組みが考えられると思う。

● 委員

生産者の顔が見えるということが大切であり、幼稚園から学校等での体験学習が必要である。実際に土を弄って作物を育てることが必要である。

● 委員

私としては国の施策を基本としながらライフステージの取組みを示すのが良いとイメージしている。

● 委員

国の施策を参考にして、その施策をライフステージごとに分けて行くのが良いと思う。そのほうが国や県との整合性も取り易いと思う。性質別はわかりにくい気がする。

● 委員

性質別なものは抽象的でわかりにくいと思う。先ほどから話に出ているライフステージに具体的なことを取り込んでいけば、それが性質的なものを網羅していくと考える。また、食は最終的には心を豊かにするなど、精神的な役割が非常に大きいと思います。食育の日を設けて、家族での食事をすることは大切だと思う。心を育てていくということも大切な一面として取り込んでほしいと思う。

● 委員

歯科医師会の立場としては、どんなに美味しいものがあったり、どんなに安全なものがある、

家庭の日を作っても、口腔状態の健全が無いと健全な食育は望めないと思っている。食育の第一歩は口腔内を健全に保つこと。そのことも考えてほしい。

● 委員

給食を残しても先生が食べるように言えない、嫌いなものは残すのが当たり前と考えている親もいる。そういうことを踏まえれば、親の教育をしなければならない面もあるので、そのことについても考えたほうが良いと思う。

● 委員

- ・ 望ましい食習慣を身に付けてほしい。給食を無理に食べさせることは難しい。残す理由は、嫌いなものがある、時間が無い。嫌いなものを食べるようにするのは難しいので、生徒だけでなく保護者も含めた指導が必要になってきている。
- ・ 朝食については、90%以上が食べているとの回答をしている。毎日バランスの良い食事を摂っている生徒は30%しかいなかった。親と一緒に食事を食べている子のほうがバランス良く食べている。食べる内容が重要になってくると思う。

● 委員

患者さんから聴かれることの8割は「どんなものを食べたら良いですか」ということである。ライフステージの考え方は賛成である。子供の味覚は幼少時に形成されるので、また小学校に関しては親を対象にした指導が必要ですが、母親の1/3は働いており、どのような時間に講習等を行うかを考えていかなければならない。医師の立場からは、健全な食生活を送っていただいて、どれだけ患者さんを減らすかが大切だと思う。健康と言った面から、食育に取り組むことが大切である。

● 委員

日々悩んでいることは、保護者への啓発。大多数の子供は食事をきちんと摂っているが、問題を抱えている家庭もあり難しい。ライフステージの取組みについて賛成。その年代年代で、食育の視点から見やすく、わかり易く、具体的に、説明することは大切なことだと思う。親御さんへの啓発について話しましたが、それぞれの目標を掲げて学校では～、家庭では～、と示すなどして、わかりやすいものになれば良いと思う。

● 委員

メタボリックシンドロームは重要な問題で、これを抑制することが必要である。患者さんの8割は高血圧、高脂結晶、糖尿病で、すべてが食事に関係している。食事の改善をすることが遅いということはない。実際に、栃木県は肥満と糖尿病が多いため、改善の余地がある。

● 委員

- ・ 食は、重要なものとして考えており、細かくして食べるなど、安全性の問題がある。また、好き嫌いの問題など、いろいろあるが、安全性に関して、一番注意をしている。
- ・ 調理師連合会、和食、洋食、中華を代表してまいりました。食育について新たに知ること

が多く勉強になった。

● 委員

生産者の立場として、とある東京の学校長のコメントで食育は学校で9割やるから家庭は1割で良いとあったが、おかしいと思った。学校、保育園、生産者それぞれの連携も必要だと思う。

● 委員

食育に関するアンケートを行ったところ、思ったほど悪い結果は出ていない。親の得意料理は子供の好きなものベスト3だった。もっと日本的な料理等も努力して作ってほしいと思っている。若い母親は食育について知らない方が多かったので、そのへんの啓発も必要だと思う。

● 委員

子供が7歳と3歳で、家庭における食育が一番大切だと思うが、親子料理教室などに参加したりしている。学校や保育園などでの食育の取組みに力を入れてほしいと思っている。

6 事務局あいさつ

7 閉会